

御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動の高度化等 検討会の開催

参事官

1 背景・目的

昨今の登山ブームに加え、平成28年8月11日から国民の祝日として「山の日」が制定されることから登山者が増え山岳遭難事故の増加が懸念されます。山岳救助活動は、特殊な環境下での活動となり、その困難性は大きなものとなります。

また、平成26年9月に発生した御嶽山噴火災害では、標高3,000メートルという環境に加えて、噴火による二次災害の危険性も高い中で、救助活動を余儀なくされました。

山岳救助活動に関する技術は、現在のところ都市型救助に比べ標準化されておらず、関係機関との連携活動においても同様のことが言えます。

これらのことを踏まえ、安全・確実な山岳救助活動が実施できるように救助体制を確立するとともに、噴火といった特殊な状況において、救助部隊が安全・確実に活動できることを目的として「御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動の高度化等検討会」を発足し、7月28日に第1回検討会を開催しました。

2 検討項目

検討会では、主に次の項目について検討を行います。

- ・関係機関との連携活動要領
- ・捜索・救助要領、資機材の活用方法
- ・安全管理の視点と手法
- ・噴火災害の特殊事項への対処

3 第1回検討会の内容

第1回検討会では、検討会の趣旨やスケジュール等について事務局から説明が行われた後、消防本部からの事例報告と気象庁及び警察庁から御嶽山噴火災害の状況や山岳遭難の概要の説明が行われ、問題点を洗い出し、今後の検討方針等について審議が行われました。

4 検討会のスケジュール

- ・第1回 平成27年7月28日

- ・第2回 平成27年9月（予定）
- ・第3回 平成27年11月（予定）
- ・第4回 平成28年1月（予定）

本検討会の検討結果は、平成27年度中に「御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動の高度化等検討会報告書」として取りまとめる予定です。

御嶽山噴火災害を踏まえた山岳救助活動の高度化等に関する検討会構成員

（敬称略・五十音順）

【座長】		
小林 恭一	—	東京理科大学総合研究院教授
【委員】		
磯野 剛太	—	公益社団法人日本山岳ガイド協会代表理事理事長
大城 和恵	—	社会医療法人考仁会心臓血管センター 北海道大野病院 循環器内科医師
込山 忠憲	—	長野市消防局次長兼警防課長
鈴木 正志	—	置賜広域行政事務組合消防本部統括主管
立石 信行	—	全国消防長会事業部事業企画課長
長岡 健一	—	公益社団法人日本山岳ガイド協会国際ガイド（兼） 独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所 主任講師・専門調査委員（兼）
名取 和雄	—	ゼネラルマウンテンガイドアカデミー代表 静岡市消防局参与兼警防課長
萩森 義男	—	東京消防庁警防部救助課長
平本 隆司	—	東京消防庁警防部特殊災害課長
星野 真則	—	独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立登山研修所 専門職
町田 幸男	—	公益社団法人日本山岳協会遭難対策委員会副委員長
松井 孝博	—	富山県防災航空センター副主幹
百瀬 渉	—	松本広域消防局警防課長



問い合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 新村、石川、若田部
TEL: 03-5253-7507